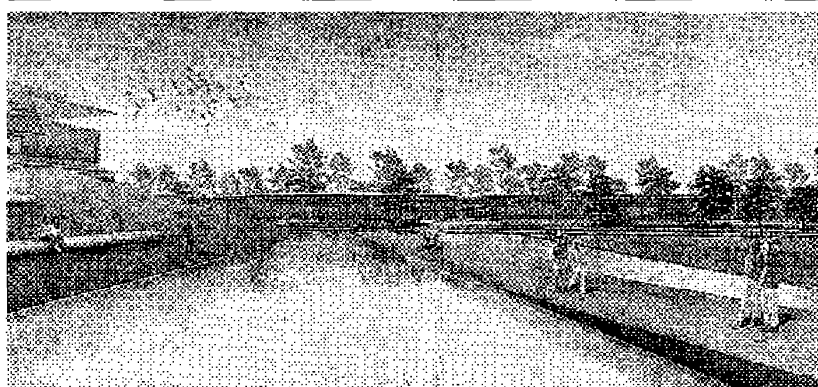


源泉掘削工事始まる

湯・食・住
複合施設

アクアイグニス仙台

深松組ら



完成イメージ

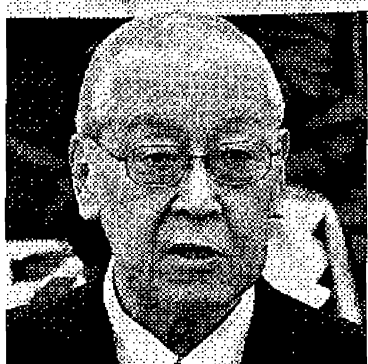
深松組（仙台市、深松努社長）やアクアイグニス（東京都中央区、立花哲也

社長）らが出資して設立した「仙台reborn」（仙台市、深松努社長）が、

仙台市東部沿岸の集団移転跡地（若林区藤塚）に計画している「（仮称）アクアイグニス仙台」の源泉掘削工事の安全祈願祭が24日、現地で行われた。温浴施設や飲食店、マルシェ、農場などで構成する「湯・食・



深松社長



熊谷社長

住」の複合施設で、今秋の本体着工を予定。源泉掘削工事は東北ボーリングが担当する。神事には施主や宮城県、仙台市、施工会社の関係者ら約30人が出席。神職による祝詞奏上、清はらいの儀式に続き、深松社長、渡辺勝幸県議会議員、赤間次彦市議会議員、東北ボーリングの熊谷茂一社長らが神前に玉串をおさめ、工事の安全を祈願した。

地区が被害を受けたことを振り返った上で、「にぎわいを取り戻し、藤塚を再生したいという思いでいっぱいだ。藤塚の由来となった藤の花を咲かせたい」と意欲を示し、熊谷社長は「長年培った技術を駆使し、全力で工事を進める。良質な温泉が湧出し、多くのお客さまに愛される施設になることを望んでいる」と決意を述べた。

計画では藤塚地区の敷地約3・4畝に天然温泉や地元食材を生かした料理を楽しめる「癒やし」と「食」の総合リゾート施設を整備する。広場を囲む形で建物を配置し、温浴施設やサウナを備えた温泉棟（RC・W造2階建て延べ約2830平方メートル）、地元産品を販売する二つのマルシェ棟（W造平屋約780平方メートル、約600平方メートル）、石窯で焼いたパンを提供するベーカリー棟（W造平屋約370平方メートル）を設ける。スイーツ棟（W造平屋約680平方メートル）やレストラン棟（W造平屋約670平方メートル）も整備し、世界的に有名な料理人が上質な食空間を提供。温泉棟は災害時の緊急避難場所にもなる。野菜ハウス（2棟約1480平方メートル）と果物ハウス（972平方メートル）を設置し、新鮮な食材を収穫する。

建築本体の施工は深松組が担当し、外構や木工事に地元建設会社を積極的に活用する。設計はARTS（津市）が担当。